

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	しずおか未来の森サポーター事業
主体	静岡県
背景(地域の課題)	里地里山地域において「企業の森づくり活動」が全国各地で展開されるようになった。今後企業が活動を持続的に発展させていくためには、従来の企業に社会貢献を求めるという視点だけでなく、企業活動にとっても里地里山や森の恵みを活用していくという方向性が必要とされており、そのための制度的仕組みやバックアップが求められている。
手法／方策の詳細	<p>静岡県の全体を占める森林の割合は64%である。戦後植えたスギなどの人工林の80%は伐採の時期を迎えているが、手入れが十分でなく土砂災害等が危惧される森林が増えつつある。木材供給と生物多様性の保全に向けた活動を、企業の力をつなぎながら展開していく必要性が出てきている。</p> <p>1) 県のコーディネート 企業のサポーターを募り活動場所を提供するに当たって、県がコーディネーターとなり森林所有者や森づくり団体と企業との間を取り持つ機能を果たす(図1)。</p> <p>2) 活動支援 「森林整備サポーター」、「森林環境教育プログラムへのサポーター」、「森づくりボランティア団体へのサポーター」といった、企業が行う活動を支援している。また実績に応じて認定証を発行している。認定証には活動面積に応じて算定したCO2吸収量が記載される。また静岡県は、森づくりに貢献する企業に対して「Smileラベル」を発行しており、企業CSR活動のイメージアップにつながっている(図2)。 サポーター協定企業は現在約20社を数え、海岸松林植林、間伐活動、子どもたちへの森の触れ合い活動、ツリーデッキの作成などに取り組んでいる。 また相談会、フォーラム、研修会、バスツアーを開催し、森林活用の情報を提供している。</p> <p>3) オフィスでできる森づくり 未利用木材の活用に使われる費用が含まれた紙を印刷物等に利用してもらうことにより、森林整備を促進する「ふじのくに森の町内会」の取り組みが広がりを見せようとしている。</p>
手法・技術的視点	県が企業CSR活動に対して活動内容を提示したり情報提供を行っている。様々な企業側の要望を反映することができるような制度運用の展開を図っている。

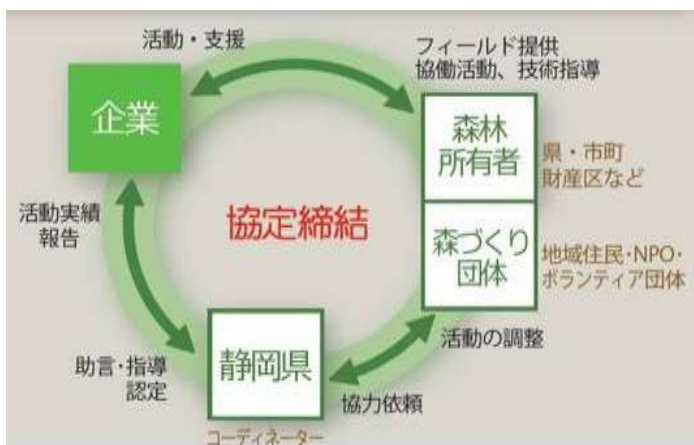


図1 静岡県によるコーディネートイメージ

Smile ラベル・ ロゴマークの付与

活動内容によって認定証に
Smile ラベルを付与します。

スマイルラベルには、
1. 静岡・森林・自然の頭文字『S』、2. 恩恵『mileage』、3. 笑顔『smile』を掛け合せ、『森づくりに参加から森林の恩恵を受けるとともに、みんなの笑顔につなげたい』という思いが込められています。

スマイルラベル

資金による貢献

労力による貢献

地域との連携

図2 Smileラベルのサンプル

参考資料	里なびin静岡 静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課
------	------------------------------